

DDW-Japan 2006 アンケート調査報告

DDW-Japan 2006 運営委員会

- 第48回 日本消化器病学会大会
会長 今井 浩三 (札幌医大・学長)
- 第72回 日本消化器内視鏡学会総会
会長 田中三雄 (富山大・光学医療診療部)
- 第10回 日本肝臓学会大会
会長 坪内 博仁 (鹿児島大大学院・消化器疾患・生活習慣病学)
- 第44回 日本消化器がん検診学会大会
会長 高後 裕 (旭川医大・3内科)
- 第37回 日本消化器呼吸学会総会
会長 中村 光男 (弘前大・保健学科病因・病態検査学)

DDW-Japan 2006 (日本消化器関連学会週間) 札幌は、5学会が参加して開催となりました。各学会長の先生方、運営委員会の先生方、学会の事務局をはじめとする多くの関係各位のご尽力のお陰を持ちまして、13,815名の皆様を札幌の地にお迎えし、盛会のうちに学会を終了することが出来ました。

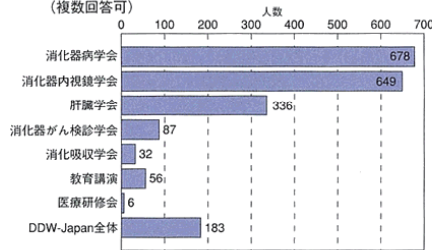
2006年も昨年同様アンケート調査に、多数の参加者各位より貴重なご意見を頂戴いたしました。DDW-Japan 2006 全体については、77%の参加者が普通以上の満足度を示しております。また、現行の DDW 方式については、73%の参加者より続行すべきのご意見を頂戴しております。主題数等につきましては、51%が適切とご回答を頂いております。しかし、33%の参加者より多い、やや多いとのご指摘も頂戴しており、今後の課題と思われまます。

今後も各学会と連帯を更に密にし、最善の努力を図って参りたいと考えております。参加者各位より一層のご意見、ご教示を賜りますようお願い申し上げます。

はじめに

DDW-Japan 2006 札幌は、2006年10月11日(水)から14日(土)までの4日間にわたって、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本消化器がん検診学会、日本消化器呼吸学会の5学会が参加し、札幌コンベンションセンターと道立総合体育センターで開催された。参加者は13,815名で、演題数は例年に比べ約2割増となり DDW-Japan 発足以来、最多を記録した。学会参加者に対して、18項目のアンケートを実施し、1,108名から回答が得られた。DDW-Japan の実態や問題点を浮き彫りにし、今後の運営に貴重なデータと考えられる。以下に、その主な項目を抜粋し、結果を報告する。(図1)

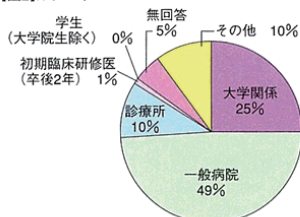
【図1】今回、どの学会を主な目的で参加されましたか?



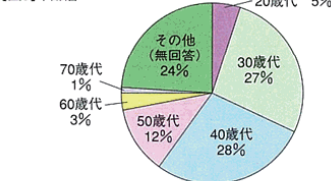
【図2】回答者の背景：所属施設、年齢層、参加目的

参加者のカテゴリーは例年とほぼ同様、一般病院が最多の49% (538名) で、ついで大学病院が25% (278名)、診療所10% (108名) であった (図2)。年齢層は、30歳代と40歳代が過半数を占めていた (図3)。また、どの学会を目的で参加されたか? の回答では、例年と同様に消化器病学会と消化器内視鏡学会が多く、DDW-Japan 全体として参加したとの回答は13.6%であり、前年度 (約10%) とほとんど差を認めなかった。これまでも指摘されていたことであるが、DDW-Japan は短期間で複数の学会に参加できるメリットはあるものの、各学会が共同のテーマを掲げ、有機的な連携を行いながら開催していく工夫が必要であることが再認識された。

【図2】カテゴリー



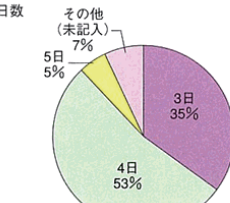
【図3】年齢層



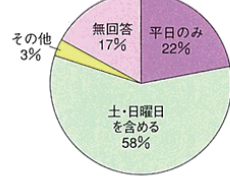
【図4】開催の希望日数と曜日について

希望する日数は、3日が35%、4日が53%であり、現行の通り4日間の開催を希望する声が多かった (図4)。また、希望曜日は土・日曜日を含めた開催を希望する回答が58%を占めていた (図5)。参加者の構成が一般病院や診療所に勤務する医師が多いことを考えると、今後、出席しやすい土・日曜日を含めた週末での開催を考慮していかなければならないであろう。

【図4】希望日数



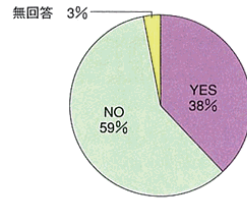
【図5】希望曜日



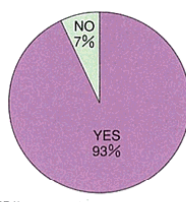
【図6】ホームページと CD-ROM 抄録集について

DDW-Japan 2006 に演題申込をしたとの回答は38%あり、前年度 (神戸開催) での68%に比べて大きく低下していた (図6)。この理由は、今回の学会参加の目的は、演題発表を目的とするより、初めての北海道 (札幌) 開催で学会参加を目的とした人も多かったことを反映し、地理的な魅力が大きく関与したと考えられる。また、演題の応募は自分で行ったと回答した人は93%であり、前年の35%から大きく上昇した (図7)。ホームページからの演題登録が普及した結果といえる。また、操作性に関しては、良いが53%、やや良いが22%、普通が23%で、全く問題ないと思われた。また、CD-ROM 抄録集の配布は、続けた方がよいが48%、何とも言えないが25%であり、前年度に比べていずれも増加していた (図8)。事前配布を希望する声もあり、CD-ROM 抄録集の配布は継続する意味はあると思われる。

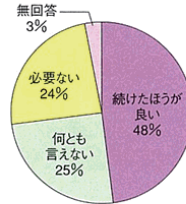
【図6】DDW-Japan 2006に演題申込をしましたか?



【図7】演題登録はご自分でなさいましたか?



【図8】CD-ROM抄録集について

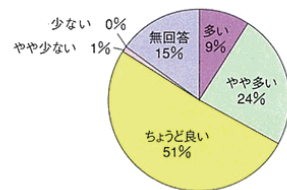


【図9】主題数について

シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップなどの演題数はちょうど良いとの回答が51%であった。一方、多いが9%、やや多いが24%、少ないと回答した人は0%であった (図9)。したがって、現状の演題数で問題はないと考えられるが、

例年と似たような主題や各学会間で類似した主題があるとの指摘があり、今後、学会間での主題統合や主題演題の吟味が必要であると考えられる。

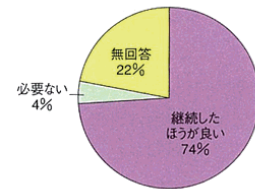
【図9】主題数について



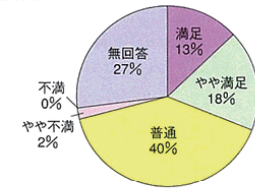
【図10】合同セッション、教育講演、医療研修会について

合同セッションは、継続した方が良いが74%で、必要ないはずが4%であった。例年通り、高い支持を得ているようである (図10)。また、教育講演は、満足が13%、やや満足が18%、普通が40%であり、これらで全体の72%を占めていた (図11)。医療事故に関する講演や EBМ の概念・方法論など教育講演でしか聴くことの出来ないテーマを希望する声があり、今後の検討課題であると思われる。医療研修会に関しては普通が最多で45%、満足が7%、やや満足が12%であり、教育講演と同様、満足度は成果が挙がっていない。これまでも指摘されているが、教育講演との住み分けがわかりにくい点があり、今後の方向性について再検討する必要があるかもしれない (図12)。

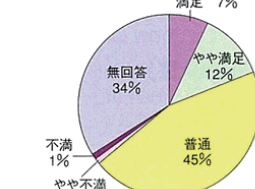
【図10】合同セッションについて



【図11】教育講演について



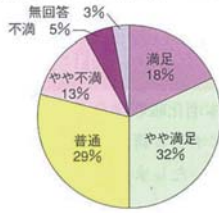
【図12】医療研修会について



【図13】中継会場について

満足が18%、やや満足が32%で50%を占めた。しかし、やや不満と不満が併せて18%であった (図13)。今回、会場が2会場に分かれていたため中継会場を設置したが、中継のプログラム数や中継会場の増加を望む声が多かった。また、中継会場が商業展示と近接している場所があり騒々しく中継がよく聞き取れない、またスクリーンが見えにくいといったといった苦情が多かったことは、今後の中継会場の設置の課題とした。

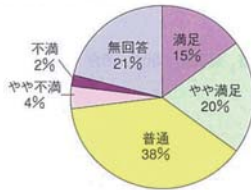
【図13】中継会場を利用した人の満足度について



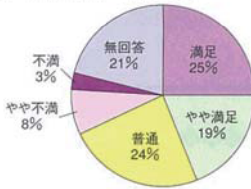
□ スポンサーイベント、ランチョンパスポートについて

普通が38%で、やや満足が20%、満足が15%であり、肯定的な評価が7割を超えていた。一方、やや不満と不満が併せて6%であった(図14)。ブレックファーストセミナーを多くして欲しい、人気が予測できるセミナー(IBDなど)の会場は予め座席数を増やす必要がある、との要望が多かった。また、今回、初めて導入したランチョンパスポートについての評価は満足が25%、やや満足が19%、普通が24%で、肯定的な意見が7割であったが、やや不満・不満の回答が11%にみられた(図15)。その主な理由は、1人で何枚も発券できる不公平さや発券時間の改善を希望する声にあった。前日のスポンサーイベントの予約を不公平とする意見や、逆に便利で良いとする意見があり、今後このランチョンパスポートを継続するのであれば、利用方法について事前の案内を徹底していく必要があると思われる。

【図14】スポンサーイベントについて



【図15】ランチョンパスポートについて

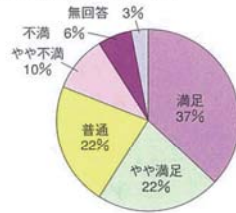


□ シャトルバスについて

シャトルバスを利用した人は57%であった。この内、満足が37%、やや満足が22%、普通が22%で、約8割の人が不便を感じなかったようである(図16)。しかし、朝の運行本数が少なく、乗り場や案内が不明瞭(7名)、会場から札幌駅行きの便がない(29名)、札幌駅発が12:30でなくなるのが不便(7名)とい

た意見が多かった。発車予定時間がわかると便利であるとの意見があり、今後、参考としていくべきであると思われる。

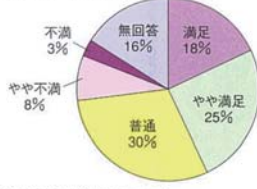
【図16】シャトルバスの満足度について



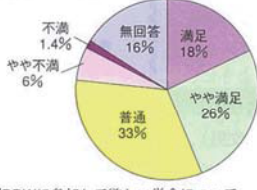
□ 会場運営、今回のDDW全体について、DDW方式と参加して欲しい学会について

会場運営および今回のDDW全体の評価であるが、何れも満足が18%、やや満足が約25%、普通が約30%であり、例年と同様の満足度であった(図17、図18)。また、DDW方式は、今後も続けた方が良いとする人が73%を占め、止めた方がよいとする意見はわずか2%であり、現行のDDW方式の続行を支持する結果が出た。今後、DDWに参加して欲しい学会としては、これまでと同様に、膵臓学会、胆道学会、消化器外科学会、大腸肛門病学会を希望する意見が多く、今後も引き続き検討する必要がある(図19)。

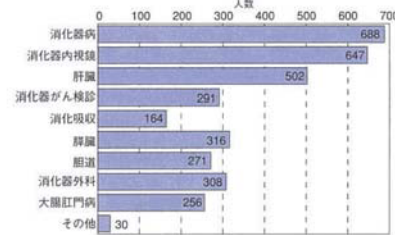
【図17】会場運営について



【図18】今回のDDW全体について



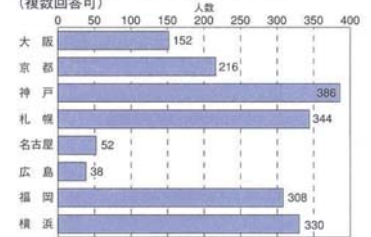
【図19】DDWに参加して欲しい学会について



□ 会場について

DDW-Japan 発足後、初めての北海道開催であり、参加者の印象に不安を抱いていた。しかし、実際は、例年印象が最も良い神戸に続いて第2位の結果となり、大いに満足している。今回の札幌開催で色々な課題が浮き彫りになったが、今後、この全体的な好印象度は、再び札幌での開催を可能とするデータになるであろう(図20)。

【図20】過去のDDW開催地で印象が良かった会場について(複数回答可)



□ おわりに

初めての札幌開催であり不安を抱えての出発でしたが、お陰様で多くの学会関係者のご協力により、無事盛會裡に終了できたことは、運営委員一同非常に満足しています。また、応募演題数は過去最多となり、全国の多くの先生達が秋の北海道での開催に興味を抱いてくださったことに感謝しております。しかし、札幌では、これまでのDDW-Japanのように大きな会場施設の確保が難しく、2会場に分かれての開催となったため、移動に不便を生じてしまったこと、また会場が狭く天井も低かったため、スライド画面が見にくいといった意見が多数寄せられ、今回の大きな反省点となりました。今後、再び札幌で開催する機会があったときの参考にさせていただきたいと思っております。

最後に、アンケート調査にご協力いただき、貴重なご意見を多数お寄せいただいたことに深く感謝申し上げますとともに、JDDWの発展のために、今後の更なるご協力をご支援をお願いする次第です。ありがとうございました。

文責 DDW-Japan 2006 広報委員長 高後 裕